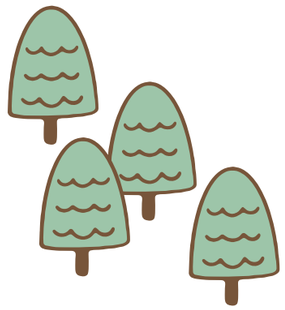
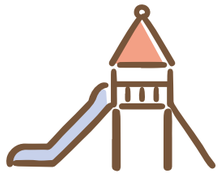
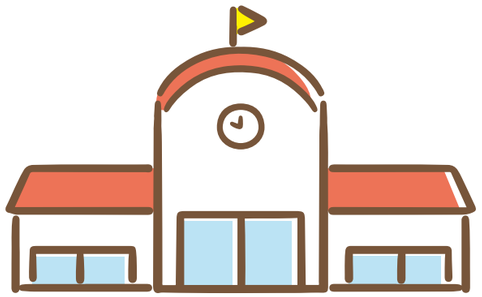
働きやすい
職場環境づくりに取り組む

魅力ある保育所







三重県 子ども・福祉部 少子化対策課

働きやすい
職場環境づくりに取り組む

魅力ある保育所

幼児教育・保育は、子どもを通して命と向き合い、社会に貢献する大切な仕事です。

保育所や認定こども園などでは、子どもの健全な心身の発達を図るため、豊かな人間性と高度な知識を備えた保育士、看護師、栄養士、調理員などが、それぞれの専門性を発揮しながら、素晴らしい幼児教育・保育を実践しています。

子どもを中心にした保育の実践やICT等を活用した業務改善など、保育所等の様々な取組を紹介します。保育現場の魅力を少しでも感じていただければ幸いです。

いなべ市立 ほくせい保育園 P03~04

社会福祉法人微笑福祉会 野登ルンビニ園 P05~06

学校法人藤学園 藤認定こども園 P07~08

社会福祉法人高田福祉事業協会 高田保育園 P09~10

伊勢市立 御薗第一保育園 P11~12

社会福祉法人弘仁会 滝之原保育園 P13~14

いなべ市

Profile

いなべ市北勢町阿下喜
3851番地
園長名　小寺 淳子
定員数　150名
職員数　43名
（うち保育士34名）

いなべ市立 ほくせい保育園

ほくせいほいくえん

地域の自然環境を活用した野外体験保育

いなべ市保育園重点目標の1つである『主体性をはぐくむ保育の追求』として、子どもの直接体験を大切に、安全に留意し、ほくせい保育園だからこそできる野外体験保育を行っています。野外体験保育とは、野外を中心に、地域の自然を活用し体験活動を取り入れた保育や幼児教育のことで、園舎近くの森では、2歳児から5歳児までが年間を通して遊び、見通しを持った保育が展開できるよう、活動後の振り返りを行い、職員間の共通理解を図っています。また、地域の方からお借りした園舎裏の畑では、年間を通した野菜づくりを行い、自分たちで育てた野菜を調理して食べるという食育にもつなげています。これらの取組により、保護者にお伝えしたくなるエピソードが豊富になり、コミュニケーションの円滑化にも役立っています。

保育士は、アドバイザーや集落支援員といった外部の有識者から助言をいただくことで、保育技能を向上させるとともに、リスクマネジメント研修や自主研修に参加し、研修内容を園内研修で報告することで、全職員が同じ方向をめざし、主体性を持って野外体験保育に取り組んでいます。

味噌づくり体験のようす

子どもの「生き抜いていく力」を
自然体験を通して育んでいます。

外国語の話せるスタッフ常駐による翻訳・通訳活動

絵本も同時通訳で伝えています

全園児の2割近くが外国籍家庭や外国にルーツを持つ家庭で、中でもスペイン語・ポルトガル語圏の家庭が多く、常駐の国際化対応職員2名（スペイン語・ポルトガル語）と連携を取りながら多文化共生保育を進めています。対応職員の業務は、園からのたよりや必要書類・保護者からの連絡などの翻訳、登降園時の保護者と保育者のやりとりや面談時の通訳、保護者参加行事時の同時通訳、園が関わる各種相談時の同席などです。

また、『言語の壁・文化の違い』という園生活での困難な場面でも、保育者の言葉を子どもに伝える、絵本の読み聞かせ時の同時通訳をする、友だちとのコミュニケーション時の橋渡し役になるなど、子どもも保育者も大変助けられています。

お互いの思いを伝え合うことで信頼関係が深まり、子どもたちは安心して園生活を送ることができ、保護者は安心して園に預けていただいています。

早朝・延長保育、土曜保育に特化した人員の配置と有給休暇の取得について

早朝・延長保育、土曜保育の利用者が多いうえ、新型コロナウイルス感染症の拡大防止・予防の観点から少人数ごとの保育も必要になっています。早朝保育・延長保育・土曜保育専任保育士の配置により、職員の配置回数を減らすことができています。また、早朝保育を担当した職員が所定勤務時間で退勤できるよう、延長保育専任保育士を配置しています。専任保育士は保育経験豊富な方が多く、子どもたちは通常保育時間外も安心できる家庭的な雰囲気の中で過ごしています。

年度初めに『休暇表』を1年分用意し、いつでも書き込めるようにするとともに、ミーティング時などに有給休暇を取得するよう促したり、取得日数が少ない職員に声をかけたりするなど、取得しやすい環境づくりに努めています。

ノンコンタクトタイムの導入も始めています

保育士が、勤務時間内に子どもたちから離れる時間を確保するノンコンタクトタイムの導入で、保育士が自分の保育を振り返り、今後の質の高い保育につなげるための時間が確保できています。

亀山市

Profile

亀山市両尾町字車瀬2193
園長名　坂本 鏡子
定員数　70名
職員数　36名
（うち保育士19名）

社会福祉法人 微笑福祉会 野登ルンビニ園

ののぼりるんびにえん

職員会議やミーティングの充実で、保育の不安を解消

職員会議はワークショップ

職員全員が意見を出し合えるよう、職員会議はブレーンストーミングなどのワークショップ形式で和気あいあいと行っています。複数の性格タイプのテスト結果でグループ分けを行い、全員が意見を出し合いまとめたものをグループごとに発表、さらに結果を一つにまとめて保育につなげているので、やりたいことが実現し、日々楽しく仕事ができている職員が多いと感じています。

週一回のミーティングでは、連絡事項の確認だけではなく、ヒヤリハットの発表と検討なども行っています。避難訓練の反省会では、毎回必ず改善点を出し合うなど、不安要素を減らす取組をしています。

また、職員の成長につなげるため、各行事に関しては年度初めに責任者を選出して、その責任者がメンバーや日時などを決めて必要な会議を招集し、話し合った結果を基に各クラスの保育を展開しています。

ＩＣＴ導入による記録書類の簡素化

平成 30 年に保育アプリを導入し、保護者への写真販売にかかる労力削減、アンケートの集計、新型コロナウイルス感染症に関する連絡の送信など、便利に利用しています。

以前はホワイトボードで伝えていた日々の様子や連絡ノートもアプリに移行。各クラスに iPad を配置し、写真と共にお子さんの様子を配信することで保護者の保育への理解も深まりました。気になる書き込みも職員数人で確認して、保護者の不安等を見逃すことなく関われるようになったことで、保護者からの信頼度もアップ。また、保護者からの悩み相談などに答えるために、担任たちが勉強し、話し合い、研鑽に励むという良いサイクルができ上がっています。

その他にも、園内の連絡にはチャットを使い、伝達漏れや通達忘れを防止。ヒヤリハットもチャットですぐに書き込めますし、ＷＥＢ上のメモ帳はクラウドからいつでも書き込め、どの書類もすぐに見ることができるため、管理が楽で探す時間の短縮にもなっています。

職員が iPad をチェックしながら、子どもたちを受け入れます

無理なく自分のペースで働ける仕組みづくり

令和３年度の
有給休暇の消化率は95.1％

新人保育士ゆったりと保育中

研修講師としてマナー教育やキャリアカウンセリングをしてきた園長が、経験を生かして園の理念や労務管理を考え、職員の教育を行っています。

「子どもに教える前に、まず自分を振り返ろう」と、園内研修や面談を重ねて、先入観を持たない、自分を客観的に見るということを、常に意識する雰囲気をつくり、しっかり職員の成長のフォローをしているので、新卒採用の保育士の皆さんにも安心して働いてもらっています。

また、まだ小さい子どもがいる職員には、家庭時間を優先した短時間勤務や、休みがとりやすい環境を整えています。正規職員でも、育休復帰後の短時間勤務を可能にしたり、収入を上げたい職員には朝番・遅番を多く担当することで時間外手当を増やしたりするなど、職員の希望に沿った働き方ができる環境づくりに取り組んでいます。

給与等の待遇も、貢献度と報酬のバランスを自分で決めることができるので、ぐっと実力を伸ばした年には20％を超える昇給も可能で、ゆっくり成長したい年には無理をしなくてもいいような給与制度があります。

子どもも保育士も毎日が楽しい。「見守り保育」と「憧れ保育」

子どもたちには、できることは何でも自分でさせる保育を行っています。歩き始めた0才児から、朝の支度をすべてし終わるまで見守ったり、どのクラスも自分でできることは大人が手を出さずにさせたりしています。また、子どもたちから「やりたい」と言ってきたことは、責任と共に可能な限り実現させています。

その中で、何か失敗したら片付け方を伝えて「それは失敗ではなく、気を付けるように教えてくれたことなのだよ」と子どもたちに言い聞かせ、物を壊して報告に来た子どもには「ちゃんと言いに来て偉かったね」と褒めるなど、失敗という経験から学び、自分で考え成長できるように保育をしています。

日々、上級生がしていることを下級生が見て、「年長になったら、あれができる」と期待と共に進級、そしてやっとその憧れのやりたいことができるというシステムを設けています。

0歳・1歳児の朝の支度準備

園では食育に力を入れています

おいしそうに食事をする子どもたち

調味料はほぼ無添加、豆乳マヨネーズもその都度手づくりです。「重ね煮」という調理法で砂糖の量を減らしたり、抗酸化作用に非常に優れたルイボスティーを提供したりしています。園内でのウイルス感染者が少ないのもそのおかげかもしれません。職員の健康維持にも役立っています。

津市

Profile

津市豊が丘二丁目57番5号
園長名　喜田 理史
定員数　250名
職員数　53名
（うち保育教諭43名）

学校法人 藤学園 藤認定こども園

ふじにんていこどもえん

ＩＣＴ・アプリ導入による業務効率化と職員の負担軽減

本園では平成30年度から、ＩＣＴ活用による事務作業の省力化を図るため、保育業務支援アプリを導入。導入時には職員の中に戸惑いもありましたが、実際に使いこなせてきた今、アプリの利用で業務が効率化され、これまで以上に子どもたちとの関わりが深まり、保育の質の向上や保護者の利便性が高められています。また、職員の負担もかなり軽減されていることに気づき、子どもたちのことを考える余裕が今まで以上に生まれてきていると感じます。

保育業務支援アプリ「コドモン」

各クラスに居ながらiPadで確認できています

子どもたちの出欠席と健康状況の確認

今までは、子どもたちの登園を出席簿でチェックをしたり、保護者からの電話連絡を受けてそれを記録したりしていましたが、アプリの利用で保護者が登降園の際に各自の二次元コードをコードリーダーにかざすことで、子どもの登降園と時間が自動記録されるようになりました。また、保護者が入力する毎朝の検温や健康状態、連絡事項、バスへの乗車を含めた子どもを預ける状況も、職員全員がパソコンや iPad から確認できています。子どもたちの安全管理や危機管理の面で、安心できる状況が増えました。

家庭連絡、アンケート

以前は、家庭連絡は紙ベースで渡していたので、印刷後、小さい年齢の子どもたちには何回か紙を折り曲げて連絡ホルダーに挟んでいましたが、今は全部コドモンメールでの連絡になっています。行事の出席等に係るアンケートも、「アンケート」機能を使うと未回答の方のチェックと結果が反映されるので、職員が数を数えたり表にしたりすることが無くなりました。

アンケートもらくらく

バスの運行状況と位置確認

「バスの運行管理」機能で、今まで電話や口頭でしかできなかった、バスに乗る・乗らないの確認が常時できています。また、バスの位置情報が確認できることから、先日、バスの通る道で事故があり渋滞が始まっているという情報が入ったときにも、すぐにアプリでバスの位置を確認し、リアルタイムの状況をコドモンメールで保護者に配信することができました。

バスの位置を確認

※子どもの怪我やトラブル等、直接伝えるべきことは電話を利用していますが、子どもの園での様子の連絡も含め、その他の連絡は、ほとんどアプリを利用しています。

資質向上に向けた取り組み

“子どもの成長を保護者と共に喜び合う”をコンセプトに、ＩＣＴ整備を始めた４年ほど前から、子どもたちが園で保育者や友だちと一緒に遊ぶ姿をカメラやiPadを使って撮影してきました。そして、その写真から気づいた子どもの驚き、喜び、成長などを言葉にして記入して保護者に知らせる家庭連絡および、それを観た保護者からのコメントを大事にしてきました。園からの一方的な配信ではなく、保護者の方と共に同じ目線に立って子どもの育ちを喜び合いたい、そして、家庭での子育ての楽しさにつながるに違いない、という私たち職員の思いからスタートした取り組みです。

撮影した子どもたちの写真を使って活動記録を作成

３歳から５歳の幼稚園舎では、活動記録として「ドキュメンテーション」機能で配信し、１歳から２歳の保育園舎では“みてみてストーリー”として、紙ベースで保護者の方に渡すという方法をとっており、それぞれの配信の仕方、渡し方に良さを感じています。

ただただ写真を撮るのではなく、子どもが輝いている場面を撮りたい、そして、子どもの思いを代弁するようなコメントを書きたいと思う気持ちが私たちには強くあります。それには、輝いている場面が見える保育をすることが大切で、そこに私たち職員が学びを深めるべきところがあると思い、日々研修を重ねています。

資質を高める職員同士での話し合い

会議の情報も連絡機能を使って共有

保育者間の情報を共有

保育者の数が多いこと、そして働き方や労働時間が多様であること、朝７時半から夕方６時まで子どもたちが在園することなどから、職員会議や園内研修会議などに保育者全員が参加し、顔を見て話し合う機会は少ないのが現状です。そこで、職員の不安につながらないよう、会議や打ち合わせの内容などは「園内連絡」機能やグループチャット利用で情報共有をするよう心掛けています。

給食献立やおやつなどの内容確認もアプリで共有

給食献立やおやつの内容、当日の給食の写真なども「給食管理」機能から配信。保護者の方々とも会話が弾むようになりました。

津市

Profile

津市一身田町280
園長名　草深 ふじ美
定員数　169名
職員数　63名
（うち保育士52名）

社会福祉法人 高田福祉事業協会 高田保育園

たかだほいくえん

男性職員の定着により、保育に厚みが増しています

保育者を目指すのは女性だけではありません。本園では、短大卒業から勤続20年の職員を筆頭に４名の男性保育教諭が在籍しており、力仕事だけでなく、子どもたちと元気に体を動かしたり、工作を行ったり、各々の得意なことを生かして活躍しています。保育をする中で、女性目線では気づきにくかったことなど、視点の違いから発見されることもたくさん生まれており、保育に厚みが増しているようにも感じます。また、先輩たちがいることで、新しく入ってくる男性保育教諭の働きやすさにもつながっています。

いまの時代、男性だから女性だからではなく、どれだけ保育士として資質があるのか、やりがいを持って子どもたちに接することができるかが大切です。本園では、職員一人ひとりが、自分を出せるような仕事にチャレンジできる体制づくりに取り組んでいます。様々な子どもの成長には、様々な角度から観察して導くことのできる人材が必要であることは言うまでもありません。子どもに個性があるように、大人にも当然ながら個性がある、だからこそ面白いのだと感じています。

活躍する男性職員たち

業務的ではない ＯＪＴで互いに成長

コミュニケーションを取り合い成長

どのクラスも複数担任制を取り入れ、不安を感じる場面でも助け合いができる体制になっています。先輩職員がやって見せる、その中の「なぜ」を説明して見守ることで、新人職員の挑戦できる土台が生まれます。そのためには、必要とされる担任数にとらわれず、ゆとりを持った保育ができる職員配置、さらには保育室の広さや使いやすさなどの物的環境の充実が求められます。

本園ではベテラン・中堅・新人職員が、職員同士のコミュニケーションを通して互いに成長をしています。教えられるのは新人ばかりではなく、若い職員の発想や行動がベテラン職員の刺激になっており、ずれが生じたとしても、改善のきっかけだと捉えることでポジティブな思考で話し合いが行われます。お互いのモチベーションを保つ関係性が、保育者として人としての成長につながっています。

ＩＣＴ導入で助けられることと、声を聴いて感じること

ＩＣＴ導入で、登降園管理、指導案等の作成や睡眠チェック、職員の勤怠管理や請求業務など、システムを活用した事務作業の時間削減ができています。例えば、朝の一斉業務連絡は、以前は職員がクラスから一人ずつ職員室へ向かっていましたが、現在は主任が記録したものを各クラスの iPad に送信しています。これによって、子どもから離れることなく園内連絡が確認でき、連絡の聞き逃しも防げるようになりました。

一方で、ＩＣＴだけに頼るのではなく、職員間の声かけや報告・確認も大切にしています。急きょ入った連絡などは、主任や事務員が各クラスに直接伝えに行きます。給食調理員との連携は、ホワイトボードに共通して理解できる表を作成し、提供人数の把握、アレルギー児や要配慮児の対応食の確認など、都度の声かけと共に見える化を行い、ケアレスミスをなくすよう取り組んでいます。

また、欠席の連絡は、体調の様子など、文字だけの伝言はどうしても不安なため、直接お電話を頂くようにしています。そこは園長のこだわりです。お子さんを心配するご家族の思いに寄り添うことができるのも、お声を聴いてこそだと思っています。

園連絡も各クラスから確認できます

ホワイトボードで情報共有

大好きと得意で毎日を楽しく

こだわりの衣装やセットも職員たちの手づくり

誰でも得意・不得意がありますが、得意なことや好きなことで力が発揮できたら素晴らしいことです。子どもが好き、音楽や造形、絵画、運動、身体表現が得意など、どんな好き・得意でも全て子育てにつながります。職員の働きかけで、子どもたちの可能性が広がります。

本園の生活発表会は、まさに職員の大好きと得意の集大成です。クラス担任だけではなく、すべての職員が何らかの作業で関わる「楽しい」の結集であり、それが子どもたちの生き生き伸び伸び取り組むことにつながっています。そこに、お家の人に観てもらいたいという子どもたちのモチベーションが加わると、小さな舞台の数十分の発表が大ホールの劇団へと様変わり。毎年、集う人みんなが感動を味わうことができています。

療育に取り組んでいます

障がいのある子どもが自立した生活を送れるよう、一人ひとりのペースや特性に合わせた療育を行いながら、それぞれの個性を伸ばしています。

療育クラスのようす

伊勢市

Profile

伊勢市御薗町長屋416-1
園長名　森田 明美
定員数　180名
職員数　47名
（うち保育士37名）

伊勢市立 御薗第一保育園

みそのだいいち ほいくえん

ＩＣＴ導入による利便性の向上と、保育業務の効率化へ

令和３年からスタートした、伊勢市の公立保育所および認定こども園でのICT化に先立ち、本園では令和元年10月から試験的に導入を始めました。専用アプリ「保護者ＭＹサイト」を使い、欠席・遅刻の登園連絡やお休み予約など、保護者から園への連絡がスマートフォンで簡単に行えるようになり、朝の繁忙時の電話対応や集計作業の負担が軽減されました。また、登降園はＩＣカード認証を行い、情報を一元管理しています。

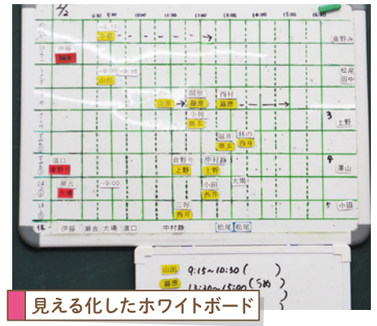
これまで紙配布だった、クラスだよりや献立表、保健だよりなどもすべてデジタル化。過去の資料が振り返りやすくなったほか、モノクロからカラー版になったことで、写真や表などの情報が伝わりやすくなりました。次年度からは、災害等緊急時のメール配信も行う予定です。

また、園内にはタブレット端末を15台配置し、写真や動画で子どもたちの様子を記録したり、踊りの練習や体操の曲を再生したりと、各クラスのタイミングで使えるので手軽で便利です。

ICカード認証による登園のようす

園からの連絡はすべてデジタル化

チームワークの向上で有給休暇の取得率アップ！



見える化したホワイトボード

本園には９名のパート保育士がおり、行事前の小道具づくりや事務作業、次年度の準備など、担任だけでは手が回らない部分をサポートしてくれています。パート保育士の日々の動きはホワイトボードで“見える化”し、手が空いてきた時に、どのクラスに手伝いに行けばよいかが一目で分かるようになっています。これにより、行事などに向けて「何を作って欲しいか」「何日の何時に人手が欲しいか」などが事前に伝えられ、みんなで声を掛け合い、お互いにカバーし合いながら計画的に行動できるようになりました。

このような助け合いが、職員の残業時間の削減や業務負担軽減につながり、相談しやすく働きやすい職場環境が実現できていると感じています。

職員の資質向上を目指した研修会の実施

月に１度の職員会議で、ヒヤリハットの発表や子どもたちの成長のようす、行事のお知らせなどを共有した後に、30分から１時間ほど「園内研修」を行っています。これは年間で担当を割り振り、人気の絵本・おもちゃの紹介や災害時の対応、書類の書き方、嘔吐物の処理方法といった保健関係まで、職員の得意分野を中心にテーマを決め、それぞれが調べて資料を集めて発表しています。

また「園外研修」として、自治体や保育団体などが実施する研修会やオンライン研修（ＷＥＢ研修）にも積極的に受講するなど、個々のスキルアップに努めています。

仕事において得意不得意はあるものです。そんな時でも、経験年数の長いベテラン保育士や保育における環境構成・安全管理など、専門分野の知識が豊富な職員もいるので、いろんなアドバイスをもらいながら知識を深めています。

月1度の園内研修で資質を向上

オンライン研修のようす

園行事を通した地域との連携・交流

プランターの苗植えを教わる園児たち

地域交流の一環として、まちづくり協議会主催で「花いっぱい運動」を年に２回、春と冬に開催しています。隣接する社会福祉協議会「御薗しらぎく園」の利用者さんたちと一緒に、５歳児がプランターの苗植えを教わり、多くの花が保育園を華やかに彩っています。

また地域活動として、クリスマス会や節分の会では、社会福祉協議会の方にサンタクロースや鬼の役になっていただき、行事を盛り上げてもらっています。未就園児の親子とのふれあいを目的とした「あそぼう会」や、未就園児の親子と御薗しらぎく園の利用者を迎えて５歳児がお店番になってお買い物ごっこを楽しむ「七夕の会」を開催したりと、地域の方々とつながりを持てるような行事づくりを心掛けています。

七夕の会

地域に開かれた保育園を目指して

園の近くに令和元年に開設した御薗子育て支援センター「ぷらむ」の交流の場として、毎週火曜日に保育園の園庭開放を行っています。未就園児と保育園児との交流や保護者同士の情報交換の場として活用いただいています。この機会に、保育士が保護者からの子育てに関する相談に応じたり、園生活のようすや魅力を伝えたりしています。

交流の場として利用されています

名張市

Profile

名張市滝之原1056
園長名　玉置 直子
定員数　50名
職員数　21名
（うち保育士18名）

社会福祉法人 弘仁会 滝之原保育園

たきのはらほいくえん

ＩＣＴの導入で業務の時間を短縮

小さな保育園のため、いろいろな把握をしやすい状況にはいますが、さまざまな情報をデータ化することにより、業務の効率化が進んでいます。

例えば、全体的な年間計画や月・週の予定は、年度ごとにクラスでまとめてデータを保存しているため、年度が変わりどのクラスの担任になっても過去のデータを参考にすることができています。また、０～５歳児の発達を見通す目安に関しても、担任が目の前の子どもの姿を見ながら、その場で成長のねらいや育ってほしい願いをデータ化されている指導計画に直接入力して手直ししています。また、クラス便りも、手書きにこだわっていたこともありましたが、現在は保護者の皆さんに写真掲載とともに短い文章を添えて、クラスの子どもたちの姿や様子を伝えるようにするなど、ＩＣＴの導入により業務の効率化や時間短縮につながっています。

各クラスに1台カメラがあり、シャッターチャンスを逃さないようにしています

クラス便り作成のようす

ノンコンタクトタイムの実施で事務処理が効率よくできています

保育士（クラス担任）が子どもから離れ、職員室で事務作業や保育に必要なものの用意をする時間を、月に一度は持つようにしています。

小さな園ですので、職員室までクラスの子どもたちの声が聞こえ、園庭で遊んでいる子どもたちの姿や様子もガラス越しに見ることができます。普段、保育をするクラスからではなく、職員室という一歩離れた場所から、子どもたちの様子を冷静に観察することができるので、自分の保育の振り返りと同時に、担任している子どもたちのことでも、クラスで保育しているときには見えていなかったことに気づける時間になっています。

定時に帰る・時間外手当を支給・有給休暇を消化

その日にやるべき保育準備などがありますが、滝之原保育園では全職員に定時に帰るように声掛けをしています。

担任から保護者に伝えたいことがあり、保護者のお迎えの時間まで残って対応する場合は、時間外労働手当を必ずつけるようにしています。それ以外の伝達事項は、担任ではなく遅番対応の職員や夕方の保育士が対応するようにしています。

また、有給休暇の消化については、付与された半分は、全職員が平等にとれるように管理しています。

研修は、楽しく、時間を工夫して、みんなのものに

全職員にＤＶＤ研修

年に一回、ＤＶＤ研修を行い、一人ひとりの子どもや保護者に寄り添う丁寧な支援の在り方について学んでいます。研修は職員が平等に受けることができるように、朝パートの職員は勤務が終わった後、夕パートの職員はお仕事前に、時短勤務の職員は昼間の休憩時間を長くして、それぞれの学べる時間で取り組んでもらっています。

全職員に資料を配布

個人ファイルが作ってあり、研修に参加した職員が大事なことだと思ったものは、コピーして全職員に資料として配布しています。

アイデア出し研修

４月初めに行う新学期の準備では、各クラスの環境を昼間の職員がみんなで見て回り、改善アイデアを出し合う研修をしています。

ロールプレイング

「製作：はじめてののり」「フルーツバスケット」など、職員が保育士役と子ども役になって、言葉かけをしながら保育を進めていく研修を行っています。子ども役の職員は、子どもになりきって動いたり話したりして、保育士役の職員がその対応をどうしていくかを実体験で楽しく学んでいます。

子どもたちは大人が考えない行動をしてびっくりさせられることがあります。普段の保育の中で、子どもが行動したことなどで困ったり対応に悩んだりした体験を共有し、解決する方法をみんなで考えています。

ロールプレイングで課題や解決策を一緒に考えています

地域の高齢者と交流

特別養護老人ホーム（国津園）に月1回、5歳児が訪問して、手遊びをしたり童謡を歌ったりして交流しています。

2023年３月発行

三重県 子ども・福祉部 少子化対策課

TEL 059-224-2268

FAX 059-224-2270

e-mail shoshika@pref.mie.lg.jp